

令和5年5月15日(月)

たゆまざる 歩みおそろし カタツムリ

皆さんは、長崎市松山町の平和公園にある平和祈念像を知っていますか。修学旅行の目的地に長崎が入っていたら、必ず見上げる像です。これを刻んだ長崎県出身の彫刻家の北村西望（きたむらせいぼう）氏が作った句に「たゆまざる 歩みおそろし カタツムリ」という句があります。北村氏は、昭和62年3月4日に、102歳で亡くなる日まで現役で創作に励んだ、という元気な方でした。

北村氏の半生（はんしょう）は、苦勞の連続でした。日展でライバルたちは次々と受賞、北村氏は8年間も賞を取れず、彫刻を辞めようと思ったこともあったそうです。「私は天才ではない。人より5倍も10倍もかかるのです。いい仕事をするには長生きをしなければならぬのです。」と語っています。北村氏は平和記念像をつくるのにも昭和26年から4年間をかけてようやく完成させました。平和祈念像を作っていたある夜、足下（あしもと）にいたかたつむりが、翌朝見てみると10メートルもある像のてっぺんに登っているのを見つけました。それを見た北村氏が感動し、自分の半生を思い作った句がこの句です。

カタツムリの歩みは、とても遅いです。しかし、そんなカタツムリがいつの間にかてっぺんまで登っているのです。それを見た北村氏はいたく感動したそうです。カタツムリにこつこつと粘り強く歩み続けるエネルギーの驚異をみました。北村氏はカタツムリを尊敬するようにさえなったそうです。

北村氏が100歳になった際、島原市の玉宝寺（ぎょくほうじ）の聖観音（しょうかんのん）像の台座に、「たゆまざる 歩み恐ろし カタツムリ」という座右銘（ざゆうのめい）を書きました。そして、その後亡くなるまで研鑽を続けたといえます。

「たゆまざる 歩みおそろし カタツムリ」

みなさんも、途中で休むことなく継続し、努力することで大きな偉業をなすことが出来るかも知れません。